

## 久喜市水道ビジョン（経営戦略）（案）第5章に対する質問と回答について

## 【安 全】

NO.	分野・項目		質問・意見・提案など	意見に対する考え方・回答（案）
	ページ	項目等		
1	42	5-2-1「安全」に関する課題と方策	地下水については、P42の5-2-1「安全」に関する課題と方策の中に記載されているが、5-2-2「強靱」に関する課題と方策の中の(3)危機管理の課題と方策に位置づけてはどうか。	毎日、汲み揚げた地下水を浄水処理し水道水として使用者へ給水していることから、原案どおり「安全」に関する課題と方策の区分といたします。
2	41	方策の展開区分「水質」	「水質」の方策に、「埼玉県企業局等関係機関との連携」を加えてはどうか。 水道水のうち約95%は県水であることから、「水質」の方策同様、安全給水のために必要であること、また、水質事故等が発生した場合には、埼玉県企業局のほか、関係機関と連携を深め 情報交換を図りながら迅速に対処していく必要があるため。	ご意見のとおり、本市の水道水は、水源の約95%を県水に依存しているため、県水の水源である河川の水質に異常が発生した場合には、水質異常の原因やその期間によって、県水の受水量が制限される可能性がございます。 このことから、①P41の区分「水源」の課題のうち、「県水の安定受水」に対する方策「埼玉県企業局との連携」を「埼玉県企業局等関係機関との連携」に修正いたします。 こちらの修正に伴い、②P42の課題「県水の安定受水」に対する方策につきましても、「埼玉県企業局との連携」を「埼玉県企業局等関係機関との連携」に修正いたします。また、説明文については、「埼玉県企業局と」以降の部分を「埼玉県企業局や関係機関と定期的な意見交換や情報交換を行い、連携を図っていきます。」に修正いたします。 さらに、③P51年次計画につきましても、区分「水源」のうち、方策「埼玉県企業局との連携」を「埼玉県企業局等関係機関との連携」に修正いたします。
3	42	(2)水質の課題と方策	「水質」の方策に「2 関係機関との連携」を加え、文章を以下のとおりにはどうか。  今後も安心して～～～適切な浄水処理やきめ細やかな水質検査の実施及び検査結果値の迅速な評価を行うなどして常に水質監視に万全を期し、水質基準を高いレベルでクリアする水道水を供給します。 また、県水が主な水源であるため、県水の事業主体である埼玉県企業局と定期的な意見交換を行い、連携を図っていきます。 さらに、水質事故等が発生した場合には、埼玉県企業局のほかに状況に応じて国（厚生労働省水道主管課）及び近隣市町等の関係機関との連携も深め 情報交換を図りながら迅速に対処していきます。	「水質」の方策に「関係機関との連携」を加えますと、同じ「安全」の区分の「水源」の方策である「埼玉県企業局等関係機関との連携」と重複してしまうため、原案どおりといたします。

【強 韌】

NO.	分野・項目		質問・意見・提案など	意見に対する考え方・回答（案）
	ページ	項目等		
1	41・43・51	浄水場の課題 「設備の適切な更新」 に対する方策	P41、P43では「設備」だが、P51の表では「施設設備」となっている。 統一した方がよい。	P51の浄水場の方策のうち、「施設設備の維持・管理による長寿命化」及び「施設設備の計画的な更新」について、「施設」の文言を削除いたします。
2	44	大規模地震対策／ 施設設備の耐震化の推進	「耐震化率：配水池の有効容量で算出」とあるが、どのように算出をしているかわからない。	配水池の耐震化率については、P24・25の施設の耐震状況表の吉羽浄水場他5浄水場の配水池の耐震状況欄中に、レベル2適合と記載のある配水池9池分の容量44,500m <sup>3</sup> を配水池の総計18池分の合計61,231m <sup>3</sup> で除して、算出しています。 なお、表の下に「耐震化率（％）＝耐震化容量÷総配水池容量×100」と追記いたします。
3	45	管路の適切な更新／ 管路の計画的な更新	グラフの更新需要が何に基づくものなのか不明瞭。 法定耐用年数を超過した管路について、長期的な計画に基づいた更新を表すものならば、P43のような計画の説明を加えた方がよい。	文言については、「管路については、適正な維持管理を行いながら長寿命化を図るとともに、老朽化が進んでいる耐震性の低い管路はアセットマネジメントによる試算を実施し、基幹管路、配水管の更新及び補強連絡管の整備にかかる費用を平準化し実施していきます。」と修正するとともに、グラフにつきましても「管路」のみから「基幹管路」「補強連絡管」「配水管」に色分け表記してまいります。
4	46	大規模地震対策／ 管路の耐震化の推進	「基幹管路の耐震化率」とあるが、どのように算出しているかわからない。	令和2年度末における基幹管路の耐震化率は、基幹管路総延長が59,123.73mに対し、耐震性能を有する管種・接手の延長が16,541.08mであることから、28.0％となったところでございます。 なお、表の下に「耐震化率（％）＝耐震管延長÷水道管総延長×100」と追記いたします。
5	47	応急給水体制の強化／ 迅速で効果的な 応急給水体制の構築	「免許による運転への制限がかからないよう、小型の」を「免許による運転制限のない小型の」としてはいかがでしょうか。	ご意見を受けまして、「なお、」以降を「応急給水活動に用いる給水車を増車する際は、普通自動車第1種運転免許で運転できる車両を導入します。」に修正いたします。
6	47	災害復旧マニュアルの見直し／ 災害復旧マニュアルの更新	「あらゆる危機に迅速に対応する体制」を「～迅速に対応できる体制」とした方がよい。	ご意見のとおり、「あらゆる危機に迅速に対応できる体制」に修正いたします。
7	51	方策の年次計画 「施設規模の検討」	年次計画表中、区分「浄水場」のうち、「施設規模の検討」については、R9年までとなっており、以降は検討しないと読み取れます。 その理由として、この表のとおり、全ての浄水場の施設規模の検討（更新時での施設の廃止を含めた適正な規模の検討及び休止施設に関する今後の取扱いについての調査）は、R9年までに終える予定のためと判断していますがよろしいでしょうか？	施設規模の検討につきましては、「検討」し、その結果、方向性についてを判断していくものと捉え、計画期間の前半であるR9までを年次計画として示したものです。 本文にも記載しているとおり、方策の多くについては継続して実施していくことが重要であり、また、進捗に合わせて再検討することも必要であると考えております。 ご意見のとおり、矢印をR9までとすると、R9で検討及び調査が終了すると解釈できますことから、矢印については、計画期間終了となるR14まで伸ばすように修正いたします。

【持 続】

NO.	分野・項目		質問・意見・提案など	意見に対する考え方・回答（案）
	ページ	項目等		
1	49	情報提供方法の充実／ 多様な情報発信ツールの活用	本文中に記載されている「SNS」についての用語解説を巻末の英字欄に加えるのはいかがでしょうか？ 現在はまだ水道界ではあまり馴染んでいないため、水道関連用語としての掲載はふさわしくないかもしれませんが、本文でも、「今後は、多様な情報発信ツールとして活用」と記載されています。	「SNS」という表現につきましては、市ホームページにおいても多数使用しておりますので、本ビジョンにおいては特に解説を必要としないものと判断しております。 用語解説は、水道事業関連の用語を掲載しているものでございますので追加はいたしません、より分かりやすい文章とするため、本文に「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等」と追加いたします。
2	49	広域連携の取組み／ 事業連携に関する調査	久喜市が広域連携についてどのような取組みを実施していくのか内容がわかりづらい。 広域連携の見出しを作って、どのようなことを実施するか詳細に記載してはどうか。あるいは、今後の施策の見通しが難しいのであれば、P50にある広域化の形態について「参考までにこのような構想があります。」のように注意書きをしてはどうか。	広域連携については、埼玉県が推進役となり、埼玉県水道整備基本構想を踏まえた取組みを実施しているため、今後の施策の見通しについては、具体的に記載することができない状況であります。 また、P50の広域化の形態の図につきましては、米印で出典を記載しているため、参考としてお示ししておりますため、原案のとおりといたします。